

令和3年度

幼稚園だより 11月号



文京区立千駄木幼稚園

幼児の豊かな学びの姿

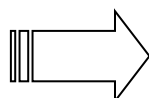
副園長 西郡 千晴

朝晩冷え込む日が続くようになりましたが、園庭を見ると紅葉が楽しみな木々の色づきはもう少し先のように感じます。今月は本園の区の奨励を受けた研究協力園として、園内の自然環境を生かした保育の充実を図ることをテーマとした研究発表を行います。2年目を迎える継続研究ですが、今年度新しくメンバーとなった教員が多いため、まずは園内の自然環境について学ぶことから始まりました。豊かな木々の四季折々に見せてくれる姿に気づき、興味をもって関わることで新たな発見を楽しむ日々でした。研究を進める中で、大人にはあまりにも身近にありすぎて見過ごしそうな小さな変化も、すぐに気が付いて教師に知らせてくれる子どもたちにはいつも驚かされました。幼い学年ほど地面に落ちている木の実をたくさん集める楽しさ、ささやかな葉の虫食いや、様々な色の付き方に気が付いてその発見を喜ぶ姿が見られ、園内でありながら豊かな体験を積み重ねていることが分かります。これらの幼児の気づきを豊かな学びにつなげるために教師は自然を生かした遊びを展開したり、子どもの発見を学級のみならず共有して共感し合ったり、保護者の方々に自然とかわる楽しさをお伝えすることを積み重ねてきました。その成果の一端を発表していくことができたらと思います。

さて、先月行われた「うんどうわくわくフェスティバル」の後の遊びの様子を少し紹介します。保護者の皆さんに見ていただいた経験から、お客さんに観てもらうことや「すごいね」「素敵」と褒められて嬉しい気持ちを十分に味わった子どもたちは、園内で違う学年をお客さんに迎えたり、自分より小さい学年に教えてあげたりすることを楽しんでいます。子どもたちにとって相手に分かるように伝えることはとても難しいことです。言葉で伝えることがもどかしく、手取り足取り伝えようとする姿も見られます。教えてもらう側もやってみたいという意欲が大きいので、教えてくれることに耳を傾けています。相手をよく見てまねをすることで自分もできるようになる経験は、嬉しい、楽しい、自分もできるという自信につながり、自己肯定感を高めることに影響していきます。まねることは学びの始まりと言われる。まねをしながら、すぐに自分のものにしていく姿に幼児の大きな力を感じます。日々様々な学びを繰り返しながら大きくなる子どもたちの成長をこれからも見守っていきたいと思います。



午前中、年長さんが見せてくれると



午後には、年少さんがさっそくまねっこです